

# 公衆衛生

THE JOURNAL OF PUBLIC HEALTH PRACTICE



## 特集 越境！公衆衛生

公共政策学としての公衆衛生学—専門職大学院における教育の試み  
イギリスにおける公衆衛生体制の再構築—わが国が学ぶべきこと  
社会問題を解決する社会技術とは何か  
地球環境保護政策の現状—気候保全に向けた国際協調  
NASVAが実施する交通事故被害者減少対策の現状と課題  
事前対応型の感染症対策の現状と将来  
制度改革と今後の公衆衛生活動の方向性について

視点●志(こころざし) 中俣 和幸

特別寄稿●介護予防を考える—8020から 鈴木 俊夫

●保健所の危機管理活動の課題—台風14号の経験から  
葛西 健・林 チエ子他

## 介護予防を考える

8020 から

鈴木 俊夫

介護保険制度が、平成12年度から施行されています。平成18年度には大幅な見直しが行われ、新たに予防給付が、介護給付から独立しました。

予防給付の対象者は、要支援と要介護1の約60%と推定されています。

また通所系で、予防給付と介護給付に、個別機能訓練体制、運動器機能向上体制、栄養マネジメント体制、口腔機能向上体制の、4種類の加算体制が新たに整備されました。

歯科領域で見れば、口腔機能向上が導入されたことは喜ばしいことですが、月2回3か月、1回100単位(1,000円相当)で、アセスメント、モニタリング、報告書(予防給付では、包括支援センターへ提出)作成など、煩雑さがつきまとい、また、包括支援センターで該当のケアプランが作成され、かつ、本人の同意が得られないと実施できません。したがって実際には、歯科衛生士が雇用されて実施するには、かなり難しいのではないかと思います。あくまでも推測の域を出ませんが、通所系の20%程度しか、体制加算を申請するところがないのではないかと思います。

### 8020 表彰

さて、介護予防の観点から口腔を見てみると、8020運動が始められました。8020は、80歳以上で20本以上ご自分の歯が残っていて、お元気な方を表彰の対象としています。この運動もすでに

始まって17年が経ちました。全国的にこの運動は定着し、毎年、各地で表彰が行われています。

愛知県歯科医師会では、当初241名でしたが、平成17年度には1,957名になり、17年間での総数はなんと12,739名を数えています。

当院からも毎年、数名の方を推薦しています[本誌60巻9号(1996年)638~640ページに、当時8020で表彰された方を紹介させていただきました]。

### 8020 その後

以下に、8020の表彰を受けた方のその後について紹介し、今後どのような介護予防を検討したらよいか、問題提起をさせていただきます。

#### ① S氏

以前本誌で紹介した方ですが(本誌60巻9号)、その後認知症に罹患され、配偶者の方も体調を崩され、入退院をくり返しされるようになりました。

そうなると認知症の進行も早く、2006年3月の時点では、歯科診療室の中でさえ、自分がどこにいるのかわからない状況にまで陥られてしまいました。元気な時からよく当院へおいでになれましたが、認知症の進行とともに、歯磨きや義歯のセルフケアができなくなりました。そのため表彰を受けた歯は、う歯になり、歯周疾患も進行してしまいました。進行したう歯は抜歯し、義歯を



図1 S氏. 8020 表彰時の歯



図2 S氏. う歯と歯周疾患が進行



図3 S氏. さらにう歯と歯周疾患が進行



図4 介護支援専門員にS氏の義歯について説明



図5 元気な時のI氏



図6 I氏. 寝たきりになっても、歯が大切と

作製しました。

図1は、表彰時のものです。その後、図2、3と変化していきました。

現在、義歯の取り外しが自分では十分にできないため、管理を介護支援専門員をお願いしています。たまたま、担当の介護支援専門員がお近くに住んでみえるので、手伝っていただき助かっています(図4)。

## ②I氏

8020で表彰を受けてから、より一層、歯を磨かれるようになりました。しかし体調が悪化し、一時寝たきり状態になったため、介護認定を受け、訪問看護で栄養指導も受けられていました(図5)。

口腔内は一時悪くなりましたが、歯の手入れを忘れることなく、寝たきり状態でもうわごとのよ

うに、歯磨きと歯石の除去を訴えられたようで、ご家族から訪問歯科診療の要望が寄せられました。そこで出向きましたところ、寝たきりでも、図6のように、歯を見せてくれました。数回の訪問診療後、次第に体調が好転し、再び通院できるようになりました。

現在は体重が減少し、義歯の適合が悪くなったため、義歯を作り直し、歯石を除去し、経過観察中です。

## おわりに

以上、8020表彰のその後を紹介させていただきました。その中から介護予防について、いかに地域でその人たちを支援していったら良いのかについて検討し、具体的施策を打ち出す時ではないかと思えます。